

特定外来生物“ナガエツルノゲイトウ” 協働駆除作戦

平成30年6月3日（日）、印旛沼流域水循環健全化会議の取り組みによる平成30年度第2回協働駆除作戦が、千葉県八千代市の新川（印旛疏水路上流部）に流入する桑納川（かんのうがわ）河口周辺で、千葉県、八千代市、東邦大学、佐倉高校（生徒3人）、農林水産省、環境パートナーシップちは、NPO法人国際ボランティア学生協会（大学生7人）、水資源機構等が協働し、総勢約50人の参加により開催されました。

水資源機構千葉用水総合管理所からは8人が参加し、陸上・船上からの駆除及び駆除したナガエの軽トラックでの回収を行いました。



（作業説明）

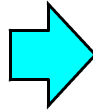


（船上からの駆除）

この取組は、平成27年度から毎年実施しており、その効果により、今回の区域ではナガエの群落は見られなくなりました。



（平成28年5月）



（今回）

しかし、岸辺をよく見るとナガエが根を下ろし、ちゃくちゃくと群落を作る準備をしています。今回の作業は岸辺に生えているナガエを手で取り除く地道なものですが、放置しておくと群落を形成してしまいます。

ナガエの群落が洪水排水時の大和田機場に流れ着くと、排水量を減じたり、最悪の場合にはポンプ運転を停止して排水をストップさせなければならなくなり、印旛沼周辺地域が浸水する恐れが増します。

新川、印旛沼及び流入河川には、まだまだナガエの群落が存在しています。

ナガエが増殖することによって、浸水被害発生リスクが増すことを、印旛沼周辺地域に住む市民の皆さんに認識していただき、この取り組みが多くの方の皆さんの参加で開催されることを願います。



（村上橋下に浮遊するナガエ：H30/6/5撮影）

次回は、平成30年7月20日（金）に開催されます。